

令和元年度 徳島県立阿南光高等学校 学校評価 総括表

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し、基本的人権を尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動できる人間力を育成する教育を推進する。
- ③ ものづくりや6次産業化をはじめとした実践的な知識や技術を習得させ、地域の活性化に向けて社会に貢献する生徒を育成する教育を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 職業人として必要とされる資質や態度を身につけた人材を育成し、個々の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 [キャリア教育の充実]
- ② 豊かな人間性と高い人権意識を身につけ、他者を思いやる心と自尊感情を育む。 [人間力の向上]
- ③ 専門分野に関する確かな技術及び技能の定着を図り、ものづくりなどの体験的学習を通して、6次産業化をはじめとした実践的な力を育成する。 [実践力の育成]
- ④ 地域の活性化や地域産業を担う人材の育成と地域・大学等との連携を深め、地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。 [地域との交流]
- ⑤ 業務の効率化及び改善により、ワークライフバランスを念頭に置いた働きやすい職場作りを推進する。 [働き方改革]

3 重点目標と計画

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題 今後の改善方向
中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	具体的な取組・評価の根拠	評価	学校関係者の意見	
学校力の向上	①基礎学力の定着を図り、学力の向上を図る	出張等による授業振り替えや学校行事等の精選・実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位につき35時間の80%以上確保することを目標にする。	2学期末までの総授業時数は12977時間。 目標時間数が15461時間であることを基に比較すると84.1%を達成できている。	A	授業時数の確保は、近年、休日が増加している現状で84%の達成は、先生方の大変な努力の結果である。 実力テストの実施は進路先決定に不可欠であるので、各生徒の結果処理を十分に活用し実力の向上に努める。更に、作文力向上について、機会を捉え実施してほしい。	引き続き学校行事の精選と授業時間数の確保に努めていきたい。 相互参観授業を次年度は実施し、参観の回数を3回以上とする。 作品の展示会や取組内容の発表会を行うなど、充実させる。 生徒の進路に応じた実力テストの内容を再考する。
		各教科の「学習指導の記録」の作成・中間評価・最終評価を実施して、わかりやすい授業へ改善を進める。	生徒の授業評価アンケート総合評価4.0以上を目標にする。	若手教員の研究授業を参観したり、教科で話し合いの場を設け、教員の授業力向上を図った。また、授業評価アンケートでは、総合評価4.0の目標は達成した。	B		
		ものづくりHR活動を各学年1回以上実施し、手先の器用さや忍耐力の向上を図る。	ものづくりHR活動についてのアンケートを実施する。	ものづくりHRを各学年とも、1回実施した。3年生では、グループでパーツ数も多く難易度が高い課題に挑戦するなど、取組改善がなされた。	A		
		実力テストを3回実施する。1回目は全学年ともに進路マップを実施する。2回目以降は学校独自の国、数、英の試験とSP対策試験(2・3年生対象)を実施する。	実力テストと進路実現との関連についてアンケートを実施する。	あこう意識調査の結果より、69.3%の生徒が役に立ったと答えた。	B		
		学びの基礎診断に認定された測定ツールでもある	合格率15%以上を目標とする。	A: 合格率が15%以上 B: 合格率が10%以上15%未満			

	数学検定や漢字検定，英語検定に取り組むことで，学習意欲を喚起し基礎学力の定着を図る。		C：合格率が10%未満 ・各検定の合格率は，数学検定35.1%、英語検定31.0%、漢字検定12.7%とばらつきはあるが，生徒の学習意欲を喚起し学力の定着を図る機会となった。	B		会とし基礎学力の定着に努める。
②進路実現を支援するキャリア教育を進める	3年担任，科長，進路課員が最新の進路に関する情報を収集し，生徒に適切な情報の提供に努める。生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	生徒の希望する企業等を訪問し，適切な資料や情報を収集する。進路ガイダンスや進路講演会実施により進路選択を支援する。三者面談，応募前職場見学，進路先資料の公開を通して進路選択を支援する。採用実績を考慮に入れた進路選択により1次内定率90%の向上を目指す。生徒アンケートによる評価において生徒満足度80%以上を目標とする。	県内外のべ数十社の求人計画，入社試験概要などの聞き取りを行い，生徒に有意義な資料を提供できた。分野別進路ガイダンスを，2学期に2年次3学期に1年次を対象に実施した。生徒が3分野を選択しガイダンスを受けた。生徒一人ひとりに対応した有意義な資料を提供することができた。2大学6専門学校対象の進学・体験型のインターンシップを実施し，48名の生徒が参加した。12月にはその成果を発表した。受験生ほぼ全員が応募前企業見学に参加し企業を知る良い機会となった。一次募集の内定率が84%(100/117)であり，昨年よりも下がってしまった。学科試験の成績での不採用より元気よさをアピールできなかった生徒が多かった。あこう意識調査の結果より87%の者がよかったと答えた。	B	インターンシップ以外にも生徒自らが企業を研究する教育や取組を実践してもらいたい。	
③校内教職員研修の充実を図る	各課と連携し校内研修の充実を図る。	学期に1回以上の研修を実施する。	各課とも昨年度並みの研修実施状況であった。メンター方式を取り入れ若手教員からの相談体制の充実を図った。	B		校内研修において，OJTやメンター方式を取り入れるなどさらに活性化を図る。
④図書館の利用を進める	図書委員のおすすめ本を展示する。その際，展示の仕方やディスプレイを工夫する。「図書館便り」を定期的に発行したり，新入生対象オリエンテーションを実施する。	来館者を増やす。利用しやすい図書館にする。生徒1人あたりの貸し出し冊数を昨年度より10%増やす。	毎月の「図書館だより」の発行や教員・図書委員の「おすすめ本」の展示・紹介などをとおして，昨年比で来館者は30%，1人あたりの貸し出し冊数も6%増加した。	B	図書館の利用を進める取組を推進する。貸し出し率を上げるのではなく，「ビブリオバトル」など，イベント的な実践を取り入れてはどうか。	今年度に引き続き，希望図書アンケートの実施や展示の工夫などをとおして，魅力ある図書室になるよう取組みを継続する。
⑤情報セキュリティ対策を	情報セキュリティポリシーに関する知識の啓蒙を行う。	職員会議・職朝を積極的に活用し注意喚起し，セキュリティに対する意識の向上を図	各学期1回は注意喚起やセキュリティに対する意識向上へ取り組めた。	B		基本的なことに関し，繰り返し啓蒙活動を心がけるとともに，実施回数を増やす。

	推進する		る。			
	⑥事業の実施による活性化を図る	6次産業化プロデュース事業や産学連携「徳島ならではの」のものづくり事業などを、地域社会や、大学等と連携して、より実践的に取り組む。	事業の実施により、創造力と実践力が身についたか、アンケート結果により70%程度の満足度を得る。	6次産業化プロデュース事業では、農業科、商業科設置校と連携し、連携校生徒が協働し、地域産ゆこうを使用した「ゆこうマーマレード」と「ゆこうどら焼き」を商品として開発した。それら開発品の東京での販売体験では、大変好評で、完売することができた。また、東京で研修も行き、新しい知見を得た。販売では、ものづくり力を活用して開発品の販売台を藍染め杉板で製作し活用した。90%の満足度を得た。	A	6次産業化プロデュース事業では、新たに開発した商品を東京のターンテーブルでの販売をめざすなど、販路開拓を目標にする。また、ゆこうの機能性に着目し、新たな商品開発に取り組みたい。
	⑦部活動の活性化を図る	部活動を全員加入を目標とする。また、活気ある部活動を実施する。	1年生の部活動加入率100%以上、全体での入部率90%以上。	1年生の加入率は、101%。全体も101%であった。	A	
		運動部、文化部、ものづくり部など更なる競技力の向上を目指す。	前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	ホッケー部、ライフル部(個人)が全国総体に出場した。また、ライフル部はジュニアオリンピックカップにおいて7位入賞を果たした。ホッケー部は全国選抜大会で19年ぶりに初戦を突破しベスト16となった。写真部は全国総合文化祭で文化連盟賞を受賞した。若年者技能競技大会旋盤部門において金賞(第1位)を果たした。	A	
		生徒が自主的に活動できる生徒会を育成する。	球技大会や生徒総会、各種壮行会を自主的に運営する。	このほか、文化祭、予餞会、車いす寄贈ボランティアを行った。	A	
		体育祭、文化祭を充実する。	文化祭での来校者数が400人以上。体育祭で近隣の保育所、幼稚園などと交流を行う。文化祭は各科趣向を凝らす。	来校者数546名で盛況であった。体育祭は荒天で順延したため、保育所、幼稚園との交流はできなかった。文化祭のアンケートで各科展示をもっと増やすべきだとの意見があった。	B	
		人権教育の活動を進める部活動の「人権探求部」の活動を充実させる。	校内活動及び「中・高生による人権交流事業」南部ブロック生徒部会や地域との交流会等に100%程度参加させる。	参加の申し込みは行っていたものの、参加当日、引率者の体調不良により、参加できなかった。	C	
人間力の向上	①基本的な生活習慣	規則正しい生活に心掛けるよう指導し、家庭との	1日の学校全体の遅刻数を7回以内にする。(平均)	1日平均7.3人の遅刻数であった。1・2年生は、遅刻5回以内表彰ク		遅刻理由の調査結果とそれを踏

の確立を図る	連携を深めながら遅刻防止に取り組む。(遅刻時の声かけ, 月遅刻6回以上生徒への指導)(生徒課長・学年主任・各科長)		ラスが昨年より増えた。しかし, 2学期以降の3年次の遅刻生徒が増したため, 目標数値を若干超える結果となった。	B	また家庭との連携を進める必要がある。
	積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。(パワフル週間, 学校安全の日)	すべての生徒が挨拶出来る。	パワフル週間や学校安全の日において, 校門前や玄関にて指導にあたった。運動部の生徒を中心に, 多くの生徒が元気にあいさつができた。	A	基本的な生活習慣確立のため, 欠席・遅刻を少なくする, 人に挨拶をする, 服装等を正す等は, 高校時代に身に付ける必要があり, さらなる強力な取組を期待する。
	頭髪・服装を正しくし爽やかに生活する。(全校集会における頭髪服装指導と継続的な指導)	頭髪服装検査を月1回実施し, 1週間以内に改善を要する生徒を30人以内にする。	毎月の全校集会において, 科長, 学年主任を中心に指導を行った。改善を要する生徒の1ヶ月平均は, 21.0名であった。	B	
②人権意識の高揚を図る	「人権学習ホームルーム活動」の充実を図る。	人権感覚を高めるため, "じんけん", "あわ"人権学習ハンドブック+αをそれぞれ5回程度活用する。	"じんけん", "あわ"人権学習ハンドブック+αをそれぞれ5回活用し, 資料の作成や授業で活用できた。	B	人権意識の高揚は, 今なお学校現場で見られる「いじめ」「人格否定等の言動」をなくすことが根幹であり, 関係行事・研修を多くして, 教職員・生徒に徹底する必要がある。 ホームルーム形式はもちろん, 小・中学校から継続した人権教育の場づくりが大切である。
	学校の教育活動全体をとおして, 人権尊重の精神を訴える。	生徒の人権学習アンケート等の評価を75%程度にする。	いじめや暴力, 情報モラルの指導に対しては生徒から概ね75%以上の同意が得られた。	B	
	公正な採用選考のあり方について理解させる。	校内管理職面接で, 「就職差別につながると思われる14項目」に抵触する質問を受けたとき, 85%以上の生徒が指導したとおり返えらるるよう指導する。	生徒は公正な採用選考のあり方について正しく理解し, すべての生徒が適切な返答ができるようになった。	A	
	校内人権教育教職員研修の充実を図る。 人権教育関係行事の内容を充実させる。	人権学習ホームルーム活動打合せと教職員研修会を合わせて年8回以上開催し, 90%以上参加する。「人権を確かめる日」や人権問題に関する講演会・映画会等を実施する。	人権学習の打ち合わせや教職員研修会を合計して8回実施し, 人権問題に対する意識を共有できた。出席率は90%には満たなかったが, 後日内容を伝達した。年間7回の人権を確かめる日と人権映画会を実施した。	B	
③環境教育を推進する	校内美化を徹底する。	毎日の清掃を徹底する。(毎日の清掃出席簿を作成し, 役割分担を明確にする。)	清掃時の出席確認の徹底することによって全体的に活動に取り組んでいた。	B	日々の清掃活動を習慣づける。 来年度は全体実施計画したい。
		年1回の全校除草(技師との連携)を行う。(宝田キャンパス, 新野キャンパス・専門棟は各科で行う)	全体での実施はできなかったが, それぞれの科等では, 実施できた。	B	

		ようにする。)			
		教室等のゴミ資源を4分類するための資源箱を設置する。学期に一度ゴミ袋内の分類程度を確認する。	教室内のゴミの分別がほぼ実施できていた。	B	更なる分別の徹底を図る。
	循環型社会形成を推進する。	ゴミ資源校内集積場を整理し、月一度ゴミ資源の集積状況調査をする。	ゴミの集積場での集積状況を調査した。	B	継続して実施する。
		年1回雑誌を古紙業者収集依頼する。	本年度も古紙業者に回収を実施した。	A	継続して実施する。
	省エネルギーへの取り組みをする。	電気使用量・水道使用量を前年比で減少させる。	毎月の使用料を確認した。	B	継続して実施する。
	環境問題標語・ポスターを募集する。文化祭において優秀作品を展示する。	3年間で環境問題の重点課題が理解されるよう講演内容を検討する。地球規模で考え、足下から実行できる人間を育成する。	1年生の夏休みの課題として生徒に提示した。提出率は80%であった。	B	提出率の向上に向けて継続して取り組む。
④安全教育を推進する	防災教育の推進。火災時の初期消火と避難、人員確認	いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できるような体制を整備する。	Jアラートの実施に伴って防災訓練が実施できた。	B	次年度も継続して実施する。
	地震時の避難と人員確認。	避難訓練をより実践に即した方法に改善する。	避難訓練において、計画通り実施できた。	B	次年度も継続して実施する。
	自転車・原付の交通事故をなくすため、交通安全意識を高める指導に取り組む。	交通事故0を目指す。月1回自転車点検と駐輪指導、原付安全実技講習会の実施。交通安全講演会の実施。	立哨指導場所を増やし、登校時の自転車事故減少に向けて取り組んだ。また、交通安全意識を高めるため、月に一度自転車駐輪指導を行った。5月には、全校生徒対象の交通安全講話を実施した。	B	
⑤健康教育を推進する	円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。	”ほっとる一む”を毎日開室する。教育相談だより”やすらぎ”を発行する。	“ほっとる一む”を毎日開室した。教育相談だより“やすらぎ”を発行した。	A	今年度と同様に次年度も引き続き実施していきたい。
	校内研修の充実を図る。	がん教育講演会を実施し、生活習慣病予防についての理解を深める。AED講習会やエピペン研修を実施し、緊急対応についての知識、技能を高める。	がん教育講演会を実施し、がんの基礎知識と生活習慣との関連についての理解を深めた。AED講習会とエピペン研修を開催し、緊急対応についての知識、技能を高めた。	A	健康課題に対する取組や緊急対応についての研修を次年度も継続する。

	生徒自らが健康管理ができるように、継続的な保健指導を行う。	保健だより等で保健に関する啓発を行う。繰り返し保健室を利用する生徒を昨年度より10%減少する。	生徒保健委員活動で保健だよりを作成(年10回)と文化祭で保健展を行い、意識啓発を行った。繰り返し来室する生徒に対しては生活習慣の改善等の指導を行い、頻回来室者は激減した。	A		生徒保健委員会活動を活性化し、健康に関する意識啓発を実践するとともに、保健室対応では個別指導の充実を図りたい。
	⑥特別支援教育を推進する	特別支援教育についての研修を充実させ、効果的な支援体制を確立する。	特別支援教育について校内教職員研修会を5回実施する。支援が必要な生徒がいる場合にはケース会議を行い、職員全体の共通理解を図る。外部機関と連携し、生徒にとってより適切な支援を行う。各学期に1回程度、支援だよりを発行する。	B		校内教職員研修会をより一層充実させるとともに、外部機関との連携を図り、“困り感”を持つ生徒の支援に努めたい。
	⑦学校いじめ防止の取組を進める	学校いじめ防止基本方針を作成し、PTAの理解と協力を得て、取組を進める。	全教職員がいじめの定義を再確認し、いじめを許さない学校として早期発見、再発防止に取り組む。また年1回以上、いじめをはじめとする生徒指導上の諸問題に関する校内研修を行う。	B	社会とのつながりから、人間力を高めることも大切であり、ボランティア活動やエシカルの考えも入れた地域社会との連携を実践する。	
	⑧ボランティア活動を推進する	ボランティア活動を通し地域や世代を超えた交流を行う。	生徒会活動だけでなくさまざまなボランティア活動を実施する。	A		
実践力の育成	①ものづくりの技術・技能の向上を図る	教員の旋盤技術及び溶接技術向上のための校内研修会を実施する。校外の研修会や実技講習会へ積極的に参加する。	校内研修会を1回以上実施する。 科から1名以上参加する。	A	ものづくりの技術・技能の向上は、指導する教員の負担は多いが、さらに多くの講習会やコンテストに挑戦してもらいたい。	マイスターによる教員研修を行い、技能士3級を指導できる教員を増やす。
	②ものづくり技術を生かす	実習等の成果を基に、各種コンテストや大会に参加して上位の成績を残す。	ものづくりコンテスト、ロボット競技大会、四国溶接技術競技会に出場する。	B	ものづくりの取組で成果を上げており、今後も継続し、実践力を身に付けてほしい。	出場できるような技能・技術の高い生徒を育成するよう、日頃からの指導を心掛ける。
	③安全作業教育を推進する	実習を通して、事故や怪我にあわないよう生徒の安全に対する意識の高揚	実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底する。安全の確保ができるように職員が	A	実習前に服装の確認や作業手順・ルールを徹底することができた。安全確保のために職員が実習場の点	安全教育の徹底を図るとともに5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を心掛ける。

	を図る。	実習場の点検,体制を整える。生徒による評価を 80 %程度実施する。	検,体制を整えることができた。			工場内の安全表示や掲示を充実させる。
	④あこが版デュアルシステムの充実を図る	2学次全員参加の短期インターンシップと3学次希望者が参加する長期インターンシップの充実を図る。	生徒の進路希望に応じた行き先を確保する。評価平均値3以上の評価ができるようにする。	短期インターンシップでは、2年次全員参加し、報告会では来賓から好評を得た。評価平均値は2.9で目標以下だが、生徒・保護者ともに80%以上の肯定的な意見を得た。	B	進路希望に応じた体験場所を確保できるよう、企業との連携を図る。
	⑤望ましい職業観・労働観の育成を図る	進路セミナーや社長塾の実施により進路に対する意識の効用を図る。社会人講師の活用や企業見学・現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。	企業の社長、人事担当者、卒業生を講師として招いて進路セミナーや社長塾を実施する。また、見学会を実施する。生徒アンケートによる評価において満足度4.0以上を目標とする。事前・事後指導を行う。	社長塾を2回実施、進路選択を考える機会としての効果が見られた。座談会を通して、コミュニケーション能力の向上が図られた。あこが意識調査の結果より70%の者が良かったと答えた。	B	
	⑥資格取得を推進する	合格率をあげるために可能な限り、資格取得補習を実施する。様々な資格取得にチャレンジするよう指導し、自主教材づくりを行う。昨年度以上の受験者数、合格者数、合格率を目指す。	旋盤3級技能検定に向けた実技指導を行い合格率を80%以上にする。電気工事士の第1・2種は60%の合格を目指す。技能検定3級とびの合格率を80%を目指す。2級土木施工管理技士と2級建築施工管理技士の受験者を昨年より増加させ、合格者を増やす。工業学会優秀生徒受賞(資格ポイント8)を目指すよう様々な資格取得にチャレンジするように指導する。	技能検定3級旋盤には6名が受検し、合格率は100%であった。電気工事士の第二種は、49名が受検し合格率は37%、第一種は14名が受検し合格率は36%であった。技能検定3級とびには5名が受検し、合格率は60%であった。2級土木施工管理技士は29名が受検し6名が合格した。昨年より受験者は減少したが、同数の合格者であった。2級建築施工管理技士は15名が受検したが合格できなかった。工業学会優秀生徒を受賞する生徒は44名で、9名増加した。	B	各種資格への挑戦は、各専門科目の実力向上に大いに役立ち、進路決定に役立つので、多くの生徒に実践させるべきである。 資格取得は、チャレンジ精神と合格時の達成感があり、個人としても成長のプラスとなるので、力を入れてほしい。
	⑦産官学連携を推進する	地域社会や企業、産官学と連携したものづくりや、ものづくり技術・技能の継承を行う。	連携先からの聞き取りアンケートにより6割以上の満足度を得る。	「現代の名工」大久保鍛冶屋と連携し、卓越した技術によるものづくりを行った。評価も良好であった。南部テクノスクールと連携し、実践的キャリア教育を行った。評価も良好であった。	A	習得した技術を活用した取組を行う。南部テクノスクールとの連携では、塗装技術も習得させる。
地域との交流	①地域貢献を推進する	地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献、学校間連携を図る取組を実施する。また、環境・防災関連製品を製作し地域	連携先からの聞き取りアンケートにより60%以上の満足度を得る。地域の要望に応えられたか聞き取りアンケートにより60%以上の満足度を得る。	6次産業化プロデュース事業では、本校・勝浦校・富岡東の3高校で連携し、事業展開ができた。90%の満足度を得た。模擬株式会社「鉄男」では、文化祭でのフラワースタンド販売で、完売	A	ものづくり等を通しての地域貢献の推進は、専門高校の強みであるので、6次産業化プロデュ

	へ応える。		させることができ、購入者のアンケートでは、満足度100%であった。		一事業、環境、防災関連の製作等は、これまでに以上に取組を強化してほしい。	
②積極的な広報活動と学校開放を推進する	ホームページの内容を充実させるとともに、定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	週1回程度はホームページを更新できるよう各課等に働きかける。	ホームページ更新回数は昨年並みであった。	B		頻繁なホームページの更新が、本校の情報発信のより活性化に繋がるので、各科に更新を督促する。
	本校の教育内容や教育活動について、中学校に対し説明し広報に努める。	訪問校を前年度より増やす。中学校等への広報内容を工夫する。	今回、広報誌「ひかり」を創刊し、本校の取組や活動内容を中学校や地域などに広く広報することができた。	A	中学生に対する学校説明会や体験入学、オープンスクール、文化祭等は、阿南光高校の魅力を伝える最大の機会であるので、教職員の英知を結集して取り組み、入学希望者の増加につなげてほしい。	次年度もさらに充実した広報誌の作成に努める。
	中学生とその保護者を対象とする体験入学の内容を充実させる。	満足度70%以上を目指す	内容的には、光高校各科の学習内容に準拠した内容で実施した。	B		さらに満足度を上げられるよう内容を充実させる。
	”徳島教育の日”に合わせ、中学生とその保護者、近隣住民に対し、公開授業、施設開放などを行う。	参加者を前年度より増やす。 (受付名簿による)	オープンスクールを開催したところ、近隣の中学生34名の参加があった。	B		次年度も実施する。公開授業の時間が1時間と短かったので、次年度では2時間は取るようにする。
	実施したPTA活動の状況を学校ホームページ上にアップすることによって保護者に周知する。	PTA総会や人権講演会など実施した事業を保護者に広報する。	PTA活動を「広報ひかり」に掲載することによって保護者への周知を図った。	B		次年度もPTA活動をさまざまな手段を通して広報していきたい。保護者が参加しやすいPTA活動を考えていきたい。
	PTA活動を活性化させることにより、保護者が気軽に来校できるような学校づくりを推進する。	PTA総会、各種研修会などへの参加人数を昨年度以上に増やす。	昨年度より生徒数が増加したことによりPTA総会の出席者は増えた。家庭教育部主催講習会や人権教育映画会等にも参加していただいた。	B		